明治四十四年十一月廿五日 土曜日 日刊 月曜及祭日之翌日休刊 第八百廿七號 (一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

發行所 京城新報社 仁川支局 東京支局

雑録

使ふ人と使はるゝ人（上）

君若翁投

使ふ人とは即ち主人側の者で資本家である、傭者である、使はるゝ人とは小僧の如きもので勞働者である即ち被傭者である、此の使ふ人と使はるゝ人とは何れの時代何れの時とを問はず兎角折り合ひの良く行かぬものである、併し何種の事業たるに論なく此の傭者と被傭者との關係が圓滿に行かぬ以上は其の事業は到底隆大なる發達を遂げ得る事は[illegible]のである。

下世話に人を使へば苦を使ふと云ふ事がある、之れは少し覩び臭い比喩の樣ではあるが此間の消息は盡し人を使ふには大[illegible]の存するものであると云ふ事を示して居るので夫の泰西の諺に稼げと言ふより來たれと言への主義と言ふ方に表裏コツあれ剛し實際に解釋せらるゝものと思ふ、而して人を使ふは左程骨の折れるものでなく若し資本家たる傭者が被傭者たる勞働者を使ふに傭者自身の手足を使ふ如く被傭者をして働かしめ得ずとせば吾は必竟使ふ人の罪にして隨て又自己の非才無能を標示して居るのではあるまいか。

今使ふ人の爲に言へば第一被傭者の天性素質及行動徴不徴などを明に一其特性に應じて仕事を授けるのである、如何事は小僧が今更らしく申さずとも苟くも主人側に立つ程の人は先刻御承知の筈である、併し會社とか商會とか多數の工人を使役する處にてはそう一々其の人の行動なり性質なりを綿密に調査することは到底行屆くものではないそれで一定の規律の下に一樣に勞働せしめるのである、左れば常に大躰に就きて注意を怠らざるは勿論深く人情の機徴を察して能く此の機徴を利用するのである、商人通有の性なる戯業の功名心などを甘く挑し來て之を善用し勞働者をして恒に愉快に滿足に働かしむる工風は最も肝要であるそ。

社長とか商會主とかゞ平素職工に對して勞働は神聖なり職業には決して高下の區別があるものでない杯と其の言葉は誠に立派ではあるが、さて其の實際は如何であるか聊か神聖觀したる待遇を爲しては居ない、のみならず中には奴隷に近き取扱を受けつゝあるかの如き感を工人に抱かしむるもある、假りに京龍間に於ける何種の事業を問はず一度足を現業の工場に投ずれば如何に狭隘にして操業の不自由なる如何に結構の不備にして非衛生なる此等は悉く使ふ人の損失にして一人の病者を出せばそれ丈けの生産力を減耗し畢竟資本家の損失に歸す、工場衛生の如き主人側には殆んど反映なしと云ふを得べく此の豚小屋然たる工場に神聖なる勞働あり神聖も亦廉なる哉。

更に使はるゝ人の爲に言へば第一自己を知ると云ふ事が必要である、抑其の自己を知ると云ふ事は餘程達識の人でなくては寸法を違へる事がある余り自己を過大に信じては傲慢不遜に流れて遂には自己の破滅を招く事になる、又餘りに過小に信じては萬事引き込み思案となり何事も他の命を俟つか少なくとも他の助力を受けざれば些末の事をも決斷する能はず如此は自己の本領を沒却して一生主動の位置に立つ能はざるに至る、故に自己を知ると云ふ事は最も慎重に最も公平に確かなる試金石に據り標準を立てゝ測定せねばならぬ

外事一束

▲墨國● 在留諸外國人昨今頻りに立退準備をなす蓋し同國の革命的大爆發の

▲狀態● 切迫し來れるが爲にして現政府反對黨の爆發は到底避くべからず

▲米國● 企業家等土政府に出願の鐵道敷設の件不許可となり種の妨害を慣る

▲列强● 伊土戰爭に關し平和恢復の爲努力せざるに決すと維納半官的報道云

▲英國● ド級鋼鐵艦センチュリオン號進水す排水量二萬四千噸速力二十節と

▲內閣● 會議に於て露國カヅブイン必要の場合にはテヘランにも出兵に決す

▲巡洋● 艦伯林號は摩洛哥協約兩國調印國政府の批准を經し後アガヂルを去と

▲土希● 兩國間昨今後のクリート島問題に關し圓滿なる妥協成立の望ありと

▲埃及● 統監は土耳其皇帝が今回々敎主の資格を以て英國兩陛下歡迎をば

▲承諾● するに決し印度の回々敎徒は頗る之れを重大視し居れりと外電傳ふ

西洋商話

●福壽草苗の分讓　該草は一名黃金草とも號し新年の床飾として引く賞觀さるゝが長野縣下高井郡延德村の勸農園にては最も優美なる黃金色變り二重咲大輪の特別苗五芽を一組として箱代送料共實費十五錢を送る人には速に送呈し又普通苗希望の方へは十芽一組を十五錢にて何處迄も送り屆ける筈なり

●十圓の指輪で五千圓　詰らぬ景品位では人氣に投ずる事が出來ぬと見て取つた寶石商の一思案した揚句、三日間大賣出しをする事に定め買物の有無を問はず來客一同へ籤札を渡し置き抽籤で當つた五人に十圓の金指輪を無代で進呈することにして蓋を開けたが買物をせずとも籤次第で金指輪に當る譯故、評判忽ち四方に喧傳して賣出し中は店內人波を打つ程の盛況を呈し首尾よく五千圓の賣上げを收めた

俳句

▲仁川俳壇卯月會席上即吟　會同人投

題 小寒、榾、毛布（各一句吐）

●十九點之部

客待ちや毛布を被る辻車　俳北

訪ふ人の不在勝ちなる小寒哉　松園

草苅りも牛も寐て居る小寒哉　竹賀

●二十點之部

榾の主姓は源氏と答へけり　菊樂

●廿一點之部

夢覺めて又引直す毛布かな　巳城

●廿四點之部

撃つて來た猪吊てあり榾の宿　宴天

●廿八點之部

熊捕りし自慢咄しや榾の宿　洪水

●廿九點之部

行暮れし僧を發聽す榾火哉　醉仙

●卅二點之部

桶の輪も寐かつらなり榾の宿　一杯

轉た寐を案じて着せる毛布哉　笹邊

（完）

梁川庄八

第四十二回　小金井蘆洲演

庄「だが貴樣の處は大勢か家內は何人だ」上「手前と女房と伜と三人暮しで」庄「成程夫で繁盛せんのは判つて居るな、客商賣の旅舍が三人暮しとは、伜は何歳だ」上「ヘー伜は十三で女房は三十九で」庄「其方は」上「私はモーいけません」庄「モーいけませんと云ふ事があるか何歳だ」上「ヘー五十一でございます……、旦那樣は人別調べでいらしやいますか」庄「イヤ然うではないが、拙者は泊れば當分滯在を致すのだから、鳥渡聞いたのだ」上「御逗留下さいます、有難うございます、御案內申上ます」庄「サア往け」悅んで上州屋藤兵衞先へ立て案內をして來る、理髮町軒を並べた旅舍、灯をかん〳〵點けて飾り看板を競つて、客を招ぐ用意の美しい事、其中に一軒未だ灯も點けず、ヒッソリとした暗い家がある、其家の前へ立た藤兵衞、上「是が手前の家でございます」庄「ナル程寂れて居るな」家根に日草か生へて昔は繁盛をもたと云つたが、家は大きい家の中は眞暗で物淒いやうだ　上「旦那樣手前共此頃御客樣が滅多に有りませんから、隣近處へ聞てへるやうに、お客樣と大きな聲で通入りたらございますが、宜敷うございますしら」庄「ヨシ〳〵遣れ〳〵二階物の景氣だ大きな聲で飛込め」上「宜敷うございます、お客樣お泊りだよー」と大聲で怒鳴た、近處で驚いた　女「入來しやいまし、お疲れ樣でいらしやいませう」と暗い中から聲はすれども姿は見へぬ　上「お洗足を持てきな、何せ灯を點けねへんだ、何うぞ此方へ……お洗足を取りまして」奧から盥出して來た、久太郎と云ふ惡戯な兒が　久「お父さんお客樣がへー珍らしいな」上「シッ〳〵默て居ろい……へへ旦那樣お足を洗いませう」梁川も呆れた、是は大變な家へ泊つたと思つた、其內に女房が薄暗い灯と點け、行燈を點け等を持て客間の掃除に二階へ行く、藤兵衞は栗の箱火鉢へ少しばかり火を取て　上「へエお案內申上ます」お階子を昇つて、中庭を見下した廣い座敷へ通した　上「何うぞ此方へ、又れ座敷が御意に入りませんやふならば取換へますで」庄「ヤー藤兵衞、其處へ座はれ、少し尋ねる事がある」上「ヘヽー」

庄「以前は成程繁昌をしたろうと昔し偲ばれる家の構ひだが、何う云ふ譯で斯樣に相成つたのだ」上「ヘエ夫が旦那、親父が亡くなりまして私の代に相成りましてから、手前共第一番の御上客樣が、御泊りになりまして晩に御盗難にお會になりまして、上州屋も親父が死んで伜の代になつてからは、客扱ひが粗末になつて、第一取締りが能くないから盗難に會つたと、其方が仰しやいますと、惡い評判は夫から夫へと擴まります者で、段々お客樣は少なくなります、然うなりますと奉公人共が拂逃げを致します、近所へ借財りを拵へて逃げます、能くない事ばかり續きまして、夫がため斯樣にさびれまして」庄「ウム夫が貴の惡い運のないのだナ、けれ共其方の處へ泊ろうと思つて客が來るな、表迄來て氣が變つて向の家へ泊るとか、隣へ泊つたら、貴樣は宜い心持がするか何うだ」上「夫はいやな心持で」庄「然うだろう夫では乃公と大して違いんな……、泊る心算で來ても泊れんせ、他の家では灯をかん〳〵點けて客を待つと云ふ時分に、其方の處に灯を點けず眞暗らで家の中は判らんと云有樣、夫ではいかんではないか、緣有て貴樣の處へ泊つたからには、一樹の蔭一河の流れ、袖摺合ふも他生の緣と云事もあるわ、其方の家を繁昌させてやるから、乃公の云事を聞け、先づ客商賣の事だから、掃除は奇麗にしろ家根の草杯もむしれ、人の家は掃除が屆かんと厄病神と貧乏神が遠慮なく飛込んで來るぞ、灯は一つで濟む處も二つ點けろ、彼處の家は火の燃るやうに繁昌すると云だろう、灯の暗いのと云者は陰氣でいかん、彼處の家は火の消へたやふに寂びしいと云位だから、又奉公人も三四人備て、夫婦に子供を相手に旅舍が出來るか」上「ヘヽー恐入まして」庄「と仰しやいますが不如意で手廻らんと云だろう、乃公は年は若いが是でも隨分有るないの苦勞も仕て來た、滯在中金主になつてやる、先づ當り金廿五兩渡して置くから早速明日から其支度をしろ……夫んなに禮を云ふ〳〵返すのぢやない、貸してやるのだが金貸ではないから利足を取ろうとは云はん」上「ヘエ〳〵」

東京電報

●**聖恩無窮**　九州[illegible]門司驛構内[illegible]清水正次郎去る十一日殉職の旨天聽に達し惻然に思召され祭粢料として金參百圓御下賜の御沙汰あり[illegible]宮内省[illegible]記官は[illegible]に其旨傳達せり

●**豫算方針奏上**　西園寺首相は二十三日午前十時參内御座所に於て明年度の豫算方針に付委曲奏上し[illegible]退出す

●**竹田宮御昇進**　近衛騎兵聯隊中隊長竹田宮恒久王殿下は二十三日騎兵少佐に御昇進相成りたり

●**小村侯爵薨去**　豫て葉山の別莊に於て靜養中なりし前外務大臣侯爵小村壽太郎氏は廿四日朝逝去せり

●**米獨大使任命**　珍田大使は獨逸駐剳を免ぜられ米國駐剳に[illegible]氏は獨逸駐剳特命全權大使に任ぜられたり

●**汕頭陷落は確實**　臺灣通信局長發電汕頭郵便局長發電によれば[illegible]革命軍は知府衙門に火を放ち數時間戰鬪中官軍は退却し潮州は全く革命軍の手に歸せり潮汕鐵道は故障なく運轉せり

●**汕頭知府捕虜**　在汕頭[illegible]汕頭知府は革命軍の手に捕へられたり

●**漢口兩軍戰況**　二十一日[illegible]革命軍は二十一日朝運動を起し大別山砲臺は清水を渡り官軍を攻擊し[illegible]官軍は先づ敗れて北方に後退し革軍は之を追擊し互に交戰中なり大智門は九江よりの報に依れば革軍は漢口の全部を回復せりと

●**英國副領事**　在京城英國副領事ペートン氏歸國に付[illegible]英國領事館の某氏任命せらるゝ筈なり

●**清皇太后と賜金**　在北京　清國皇太后は二十三日禁衛軍[illegible]

上海電報

●**革軍南京占領**　鎮江計　南京間の鐵道は革軍に占領せられ龍潭迄進擊することなり革命軍の左縱隊は[illegible]を前進せり革軍幹部は多大の損害を厭はずして南京を占領せんと計畫中なり

●**張勳革軍に被拘**　南京の張勳將軍張勳の家族は革命の爲めに拘禁せらる革軍は張勳に向つて早く降服せよ若し聞かずんば拘禁の家族を殺害すべしと恐嚇す

●**南京總攻擊期**　鎮江發電によれば南京の革命軍聯合軍の先頭部隊は二十二日龍潭鎮江線に達し其主力と見る可き一部隊は高橋に到着したれば南京總攻擊は二十五日夜なりと

●**都督と密使會見**　袁世凱の密使は當地に着し中華民國政府都督に會見し國政は民意に依り如何なる條件なりとも辭せざるにより現帝存續の主義にて和議成立を要求せしに都督は共和主義にあらざれば不可能なりと斷然之を拒絕せり

●**外人被害頻々**　四川省に外國人の被害頻々たるものありて近く外國の干涉起ることならん

●**薩鎮氷の脫艦**　薩鎮氷は[illegible]自己の無力なるより自己の脫艦を[illegible]大局決定には清帝[illegible]の退位を要すと云へり

北京特電

●**政府戰鬪準備**　袁世凱は平和的計畫不成就と見るや直ちに第三軍の編成に着手し今や軍資の調達に苦心し又武昌總攻擊に決し北京機器局に命じて大砲を製造しつゝあり

●**官軍敗報到る**　二十二日正午漢口官軍將軍段芝貴より陸軍部に達したる報告によれば漢口は革命軍に占領せられ官軍の一部潰走しつゝあり然れども馬繼增は[illegible]に止まりて防戰中也

●**政府敗報打消し**　陸軍部は漢口より來る一切の悲報を取消し官軍は再び漢口を回復し敵を支那町に敗退せしめつゝあり又劉家廟停車場に[illegible]死五十名を出し官軍は陣地を守りをれりと

●**革命黨に嚴令**　袁世凱は王兆銘を招き談合の結果王は在北京加盟革命黨に對し(一)滿漢人互に殺戮せざる事(二)財產を保護し家屋に放火せざる事(三)朝野の人材を暗殺せざる事を嚴令したり

●**袁の腑甲斐なさ**　袁總理大臣は大勢の推移に抗するの力なく既に河南に逃れんとす

●**司令官負傷退任**　官軍司令官馮國璋は負傷して歸京し段其瑞後任司令官となれり

奉天特電

●**奉天の危機迫る**　石橋子附近におりたる革命軍の一部は今曉より奉天城内に襲ひ避難民陸續として大騷擾を極め形勢暗憺として危機刻々に迫る

雜報

●**奉天攻擊公報**　二十四日午前〇時新義州深川府尹發總督府着公電によれば左の如し
昨二十三日夜八時雞冠山支署より安東警務所に達したる電報によれば石橋子附近に集合せし革命軍百五十名は昨夜奉天の一部を攻擊したる爲め官兵二名負傷したり

●**防腐劑程度制令**　防腐劑として清酒にサルチルサンを使用することにつき之れが使用の程度と檢査の方法に就き當局にても昨今考慮中なることは既報の如くなるが愈々一兩日の中に之れが使用の程度及方法につき發表すべしといふ

●**證明未濟件數**　土地家屋　京城府に於ける十月中土地家屋證明申請者は千五百六十七件にして前月より未濟三千二百六十七件を合すれば實に四千八百六十四件の多きに達したるが其中十一月中に證明を與へたるもの二千二百六十件なりと然して未濟中所有權證明の揭示中に屬するもの及申請者にして圖面其他契約等の訂正を要する爲出頭せざるもの千六百件なり

●**制限法影響調査**　利息　京城日本人商業會議所にては二十六日午後六時より總會を開き會頭を互撰すること特別議員一名を擧ぐること及び利息制限法發布以來之れが一般の影響に就ての調査を爲すこと等に就き決議する由なり

●**京城最近商況**　京城最近の商況を聞くに建築用品、日本酒、石油、石炭、金巾類其の他季節物は九月下旬頃に比し約三割方の賣行增加を示し印刷物、洋服、肉類、生魚、乾物、生果等は約二割三分方の賣行を增加し綿糸、金物、罐詰、瓦、鹹魚、海產物は從來と異りなく砂糖、麥粉等は約二割方の賣行減少を示せるが要するに輸移入品に於ては十六萬七千餘圓の增加を示せりと又鮮人側は新穀收穫時期の際とて多少閑散の氣味なるが石油、綿布、燐寸、海產物、靑物等は多少好況を呈せり衛其の他の品物は捗々しき取引なく一般の大勢は先づ平靜の狀態にあり又清國の動亂は市場には直接影響はなきも支那絹布及綿布、綿糸、燐寸等は多少打擊を蒙りたりといふ

●**藥業組合聯合會**　朝鮮各地藥業組合代表者等は廿五日午後一時より本町商業會議所樓上に於て朝鮮藥業組合聯合大會を開催する筈にて出席者約六十名の見込なりと

清商と其取引振

漢湖農工銀行支配人の談……

京仁間に於ける清商は大別して廣東上海に本店若くは金主を有する南清商店即ち所謂南帮と山東省各地に根據を有する北清商店即ち所謂北帮との二とすべく南帮は概ね西洋雜貨を營み其の資本の如きも僅に五六千圓乃至一萬圓內外にして各銀行に預金は爲すことあれど貸出を仰ぐものは殆んど皆無の有樣なるが北帮は之れに反して上海取引の吳服商輸入御商其の十中八九を占め資本額及び本店金主等の名に依る融通額共に大なるものなり而して這回の動亂に依り多少影響を受けたるものは勿論北帮にして彼等の本店若くは支店所在地たる上海に於ては動亂發生前後八月十五日より同廿九日迄の間に於て武昌漢口等動亂各地の預金取附に遭ひ各銀行が發送せし現金は現洋百廿二元現金三十萬兩に及び此他個人としての送金亦少からず爲めに上海金融界の緊迫を來し同地支那銀行の破產十數行に及び銀塊相場は著しく高騰を來し其の影響は京仁在留清商に及ぶに至れり即ち上海への爲替相場は動亂前に於て本邦の一萬圓に對し上海渡し八百五十二兩餘なりしが動亂後は十幾兩の暴落を來して八百二十八兩餘となり益々下向き一方の趨勢を示すに至りしかば京仁間の清商は茲に上海より貸附金の回收を急がるゝに至りしが彼等亦爲替相場暴落し下向一方なる際に於て上海へ返金するは極めて有利なりと思惟するに至り急に上海へ送金を爲したる爲め仁川淮豐、世昌其他よりの送金額八九十萬圓に達したり然れども之れを以て京仁清商等の金融の危機迫れるが如く傳ふるは極めて早計にして彼等は一商店にて少くも七八萬圓の賣掛代金を有し上海銀行よりも常に四五萬圓の借入金あり爲替相場騰貴の際上海へ返金を終り手許不足にして將來爲替相場下向と見れば當地各銀行に融通を仰ぐものにして期日に至り上海へ送金する時の豫想と其の時期の上海相場とを打算して結局利益多しと見たるを以て當地各銀行に借入金をなしてまでも送金を企て回收に應せし次第なり又た上海爲替相場暴落の今日に於て現金を以て商品の仕入をなすは結局引合はざると上海銀行が貸出を手控へたるとに依り上海よりの輸入貨物減少せしならんと仁川稅關に就いて其の狀況を調査せしに其の定期船に依るものは毫も異るなく只從來小包郵便に依る絹織物の輸入非常に減少せるを見るのみなり此等の點を綜合するも京仁間清商が動亂に依り其の金融上に受けたる影響は今日にては未だ極めて僅少なるを知るべく且つ前述の如く彼等は一商店少くも鮮人への掛賣代金四五万圓乃至七八萬圓あり當行が今日迄に清商への貸出金は十六口十三萬三千四百五圓餘あれど之れが回收に關しては毫も懸念を抱き居らず加ふるに革命軍上海を占領し同地稅關事務整理と市場混亂の爲め南清の絹布類は芝罘經由の外輸入杜絕の有樣なるは其の上海直輸入者は目下掛賣代金の整理をなすと共に自己在庫品の現金販賣を主とするに至りしが在庫商品亦時價各店八九千圓乃至三萬圓を有し輸入杜絕品拂底と共に漸次騰貴を示すに至り向後商機を見るに敏なる彼等の或者は此際生金巾、晒金巾、大綾布、堅縮布、綿繻子等這回の動亂に依り聊かも影響をうくることなく常に其の原產地より神戶を經由して朝鮮に移入せられつゝある貿易品商に轉業を企て萬全の計をなすもの昨今頗々たる有樣にて各々銀行業者をして貸出金に對する懸念を少なからしむ

●**定例長官會議**　二十四日午前十時より總督府に於て定例長官會議を開き山縣政務總監、倉富、石塚、宇佐美、山形、大屋の各部局長官並に岡本遞信、鈴木度支部、山形警務總長の各代理列席政務の打合せを爲し同十一時半散會したり

●**學務主任會議終了**　朝鮮全道に於ける學務主任會議は二十二日を以て終了したるにより夫れ〳〵歸任の途に就きたり

清國事變と貿易(二)

度支部第六回調査

(甲)●仁川に於ける海運及貿易上の影響●●●

(三)●輸出入貨物に及ぼす影響●●●(イ)對清輸出貨物清人扱の貨物たる威海產物等は多少惡影響を蒙るべきも其額は元來甚だ少數なれば貿易の全般より見れば懸念に値ひせざるべく內地扱の貨物たる精米は其需要者主として內地人たるが故に未だ何等の反響を認めず(ロ)清產輸入貨物中石炭及[illegible]を除くの外殆んど全部清國人の輸入取扱に屬するものなるが中にも這般の需要品にして中清產なる綿布は輸入澁滯の狀況なり其の他の雜貨亦等しくたゞ戎克便により山東鹽の輸入甚だ尠きも這は其の原因年產の減少に存するものゝ如し(ハ)上海中繼外國貨物の輸入清商扱にして然も上海中繼品たる英國產綿布及獨逸產染料等は彼等にとり最も重要の商品たるのみならず當港貿易上に極めて重大なる關係を有するものなり然るに上海問屋との關係は先に述べたるが如き有樣に陷れるを以て上海仕入値騰貴すると同時に輸入もまた手控へられ從つて當港市價の如き金巾は各品匹一二十錢を引上げたり

(四)●內地移出入貨物に及ぼす影響(イ)對內地移出品未だ何等の反響なし(ロ)內地產移入貨物絹綿糸は內地より對清輸出不振の結果內地の市價下落し現に月末に於て上旬の高値より十六手二十五錢に付二圓の下値にして前途益々暴落の氣配あり故に當業者は可成移入を節減し當用口向に止むるの態度をとれり然れども清國向と朝鮮向きとは多少其の種類を異にするを以て朝鮮向き綿糸の相場は常に必らずしも清國向のものと步調を一にせざることあり且つ朝鮮需用額にも自ら限度あれば其の價格を大に引下げて此の方面に迄損失を蒙るが如きは當業者の敢て爲す所にあらざるべければ原綿の低落に原因する場合を除き清國輸出の停滯より來る朝鮮向綿糸の下落は或は當分の現象に過ぎざるべきか

●**憲兵隊長の交迭**　大邱憲兵隊長三根少佐鐵城憲兵隊長白山少佐は共に二十二日付を以て中佐に昇任し三根中佐は京都憲兵隊長に白山中佐は岡山憲兵隊長に轉勤を命ぜられ、熊本憲兵隊長笠岡中佐、岡山憲兵隊長角田中佐は其後任を命ぜらる

●**小方神學博士講演**　最近米國加州の萬國メソヂスト大會及びデポード大學の講演に臨み神學博士小方仙之助氏は西伯利亞鐵道を經て歸朝の途次二十三日當地來着二十五二十六兩日間旭町二丁目メソヂスト教會にて歐米視察談をなし二十七日午後六時より「米國人は如何に日本を見つゝあるか」の題下にて公開講演をなすと

●**電燈引込料金引下**　日韓瓦斯電氣會社にては既報十二月一日より電燈料引下を實行するに先ち二十五日より電燈引込料を引下げ從來の半額となす由にて即ち屋外は一個所につき三圓屋內は一燈に付き一圓五十錢軒燈は一燈に付き一圓となし其の他は其の都度相談に應じて定むべく詳細は廣告欄に就て見らるべし

●**米國鑛業團一部の入京**　米國鑛業視察團の一部ウエルフ氏夫妻等五名は日本內地の視察を了へ二十四日午後八時十分釜山より南大門驛着二十五日發の直通列車にて滿洲に赴く由

●**藤田醫院長の地方出張**　藤田總督府醫院長は全道に於ける慈惠病院視察の爲め二十二日出發したりと

●**英副領事更迭**　當地英國總領事館附副領事ペートン氏は來る十二月中旬倫敦に於て結婚式を擧ぐる爲め賜暇歸國し其後任として函館領事館附副領事ロイド氏二十三日來着任す

●**松下判事の陞等**　大邱地方裁判所判事松下直美氏は今回高等官二等に陞任されたり

●**米領事の小松長官訪問**　當地駐在米國總領事シドモアー氏は二十四日午前十一時小松長官を總督府に訪問したり

●**模範場技師の任命**　京都府技師三宅鑑吉氏は今回朝鮮勸業模範場技師に任命せられたり

●**山形中佐の昇任**　朝鮮駐箚憲兵司令部附憲兵中佐山形閑氏は既報の如く去二十二日附を以て大佐に昇任されたり

●**牧山電通支局長の東上**　日本電報通信京城支局長牧山耕藏氏は二十四日朝東上の途に就きたり

●**趙黃海道長官の出京**　黃海道長官趙羲聞氏は廿三日入京不知火旅館に投宿せり

清國事變と平北の影響(一)

度支部第六回調査

清國事變の平安北道地方に於ける經濟に及ぼせる影響を記せば如左

△輸出品　大宗たる大豆は未だ出盛の期に達せず且つ本年は雨量多く作柄二三割方の不作なりしを以て人民一般賣惜の狀況なれば取引停止の影響を受けて當然下落すべきものを不作と取引未開始を以て未だ下落を來たさず最も大なる影響を蒙むりたるは柞蠶にして柞蠶に就ては長官芝罘に出張柞蠶取引に關し三井洋行と協議をなし直取引をなすことに決定し先月二十七日見本を送付したるに芝罘濱渡千個九十一錢の相場にて取引の中心點たる安東縣は芝罘より其後漸次下落の傾向を來し每年當地方へ注文入込まざる爲め全く取引休止の姿なれば動亂が來春まで永續するに至らば柞蠶に對する賣行不可能ならんかを人民憂慮しつゝあり其他一般雜穀の輸出品に在ては當管內は米作を除くの外槪して二三方不作にして現に楚山の如きは一般に六割作の狀態なれば人民は目先き穀價の騰貴を豫期し居り此際輸出向取引の手合せ盛ならざるが如し

●**龍山の健康診斷執行**　猩紅熱防遏の爲め龍山憲兵分遣所にては二十三日より龍山管內全部の健康診斷を開始せり

●**猩紅熱と鐵道局官舍**　龍山鐵道局內官舍內に猩紅熱漫延せる爲め當分官舍各戶互に可成往復せざる樣注意すべしと監督長官より諭告ありたり

●**滿鮮直通列車乘客**　二十三日午後八時三十分南大門發長春行滿鮮直通列車には獨逸人ピテ氏(商人)乘込み二十四日午前〇時二十分長春着南大門着列車には日本人一名乘込みたりと

公人私人

▲藤原三郎(清州區裁判所[illegible])二十三日不知火
▲[illegible]葉孝平(技師)二十[illegible]
▲趙羲聞(黃海道長官)[illegible]
▲稻葉武(政學士)二十[illegible]
▲富田格樹(辯護士)二十[illegible]
▲秀島浩(辯護士)二十[illegible]
▲阿部安積(技師)二十[illegible]
▲加藤與之吉(滿鐵會社[illegible])二十二日平壤行
▲センドブレー(英國[illegible])二十三日入京
▲アードロエスキー(露國領事)二十三日入京

仁川港出入船舶

二十五日
△秀吉丸　大阪より入港
△山東丸　同
△安東丸　同
△秀吉丸　同
△漢城丸　同

▲京龍兩驛の賃客
▲南大門驛乘車客　五五六(廿三日分)
乘車賃金　一七九三、八〇
▲南大門驛到着高
▲龍山驛乘車客
貨物金　五九三、
乘車客　三二一
賃客賃金　一五五
▲龍山驛貨物發送高　二九二、(廿三日分)
發送貨物　二噸
貨物賃金　九六、一〇

京城手形交換高

十一月廿四日　金　二二二、二七七、[illegible]

▲茶袋▼

東電は西園寺首相が參內して財政方針奏上の事を報せ、奏上せる財政方針は消極政策[illegible]樣れるものなるか△[illegible]子から推測すると消極[illegible]とになつたのは蓋し閣[illegible]元來西園寺侯が山本海[illegible]拔きて藏相としたのは[illegible]ずむば到底財政の危[illegible]來ないと信じたから[illegible]藏相に就任前必らず財[illegible]と默契が成立して居[illegible]問題についてゴタ〳〵[illegible]支ない之を思ふと今更[illegible]△然るに齋藤海相は海[illegible]張して遂らず終に海[illegible]なからむとまで傳へら[illegible]背きて擴張案を固執[illegible]海相たるもの今日の[illegible]つてもらひたい△萬[illegible]づけて濱武派と云ふて[illegible]も今日武斷派なるもの[illegible]と濱武派の名稱中[illegible]だ△支那の張勳は四[illegible]遇に立ちて南京に籠[illegible]と戰ひ屍を馬革に包[illegible]ーな、ソコで革軍は[illegible]なし彼居らずむば止[illegible]攻擊をやるう―な△[illegible]張勳の意氣込や壯[illegible]よりも一段上の人物[illegible]

●池田君の大失敗

▽小川勝平君の惡戯

旭町三丁目と斷るのも少々野暮の沙汰ながら其所の開進亭の藝妓は不埒にも不都合にも此頃少しも新聞材料を作らず靜まり返つて居るてう心得ぬ便誼にも温柔い娘程油斷がならぬとも云ひ鳴かぬテコに客を取るとも申すぞかし、されば鳴くべき筈の開進亭のテコ連の鳴き聲を聞かせぬのは即ち大にれ客繼いが兎に角れ客を取つて居るのに相違あるまじ根が鋼巧者の兎耳子チヤンと其所へ覗ひを附けて探つて見るとイヤ有るとも有るともヤアニイツスいいニダと獨りで承知してる丈では面白くも無ければ御披露な仕る一埒は先咄有開業から開進亭に仕君を取つた妓に榮枝と云ふ辣腕家に優り劣らぬ小男拍子眉髮は少々縮れて頗る調子の上手なのが呼物となつて賣れて居る去る二十日の事商業會議所に於て催されたる商議會に出席したる小川勝平、池田長次郎の二君重なる議題の道路擴張問題に就て池田君は他に重大問題ありと叫びて不贊成を唱へ出したらに既に本問題は本日の結果にて委員を選び政務總監に對し補助金下附の請願に行く事同盟會の幹事のことなれば何條以て聞き逭すべき立ち上つて論難したるに花が咲て一つ間違つたら腕力沙汰にも及ばんとせしが時間切迫して當日は夫れなり是で散會の歸り途小川君と某氏とは旭町の蝶々で一杯やら宜しからうの相談調ひしに小川君曰く議論は議論池田君をも呼ぶべしと電話を掛けさせたが此より先き思ひは同じ池田君小川君を誘ふて何處かで一杯飲るべしと勢り立けに小川君の宅に立寄らしに未だ歸らぬとのこと、歸宅した所へ右の電話ありしに結構至極と參り會つて拐れ互に今日は言ひ過ぎたミ併し此れも公事の爲めだ兎角藝妓を聘んで大に胸襟を開くべし夫れ好からんと一決するや酒食費用は小川君の負擔藝妓は云ひ出し屁の池田君負擔と決定し池田君は京城券の三幸と伉吉を撰定ゝしが小川君不承知とあり開進亭の榮枝と小勇こそ好しとの聲に緣の神の池田君失れは又一段と早稲君し寄せて見ると榮枝の容子が池田君の氣に入つた十二時頃の一人これ先へ失敬しナので跡は女二人に男二人、精養軒で二次會を開いた扱の一段となり池田君榮枝の手を執りサアれちやと立ち掛るをヤレ待つた早まるまいと聲掛けたは小川君男氣凜々として立ち向ひ榮枝は既に夙くより拙者と情約成立に及び居るなり又此れなる小勇は君の朋友明治町の川村君と切つても切れぬ交情なれば憚り乍ら君の野心は無駄で御座ると、云はれた池田君敗亡の頭を抱へて引き退つて曰く『小川の野郎奴に一杯食はされた、覺へて居ろ』

●虫の好い堀内實（一）

▽違約金五千圓の請求

彼れ堀内實が强慾無道にして人間の風上に置くべき者にあらざる事は五藝妓涙の內情なる題下に記述したるが如し併も开が彼れが惡業の全部にあらざるを知りては驚かざるを得ざるべし彼れは本紙が其惡辣なる怪手腕を揮ひて他人の娘の膏血を絞りし事實を記載するや倉皇として東に奔り拋妓等の親許に就き保護の委任を受取り一方妾くにをして本社に謝罪を容れ記者が情を憐んでこれを容れ記事の中止を肯んずるや歸京したる堀內は新聞社與し易しとなし或は新聞社に三百金を與へて記者は酒で殺したり杯不埒極まる言動を以て世人を瞞着せんと試みたるは既報の如くなるが鐵面皮なること彼の如きものが何故に斯くも新聞記事を氣に掛け心を惱ませしかと云ふに實に三好氏對訴訟に不利なる點多く畏縮せらるゝを以てなり、既に其大略は記載したるが堀内は契約違反を口實として三好氏に對し金三千圓の敷金返還及金五千圓の違約金請求の訴訟を京城地方裁判所に民事法學士を代理人として提起し居るなり、本紙が記述したる彼の經歷を徵して仔細に其言ふ所を見ば如何に彼が鬪々しきかを知るに足るべし、彼れ堀内は四十三年十月一日奉天駐在帝國領事の必要に依り盡に發したる退清命令を中斷して一ケ月在住の指令を以て郷里名古屋を出發し領事館に出頭を命ぜられ取り調の結果藝妓置を欺き二重證文を作り居りし事判明せし爲め其方の案却を命ぜられしに恐れ入つて引下り在住期間の滿了と同時に奉天退去の命を受け取り歸途（十一月上旬）京城に入り龍山在住の舊知水野源藏を訪ひ一日京城和樂園内高田家が小宴を開きたる時堀内は同所の風景絶佳なるを稱し料理屋兼溫泉場を經營せば面白かるべしと思ひ付き此れも同郷の知人飲食店長笑の主人岩間房太郎を同席に招き同人より土地所有者の三好和三郎氏なるを聞き自分の希望を語り土地借入の奔走を依頼したるに同人は吉田米吉なるものが常に三好氏に出入し居れば吉田をして交渉せしむるこう良策ならんとて同人をも同席に招き和樂園の一部借入方を依賴せしに同人は之を快諾し双方の間に在りて數回交渉せし結果三好氏も之を快諾し園內六百坪を坪地代一ヶ月二十錢宛にて賃貸借の契約覺書を取り交はしたり當時の堀内は前記の如く奉天を追立てられたる歸途にして所謂旅先の事なれば何等具體的行爲に出ずして十一月二十五日名古屋に向け當地を出發したるまゝ何等の申出も成さゞりしにぞ吉田米吉は中間に挾まり居れば何とか解決せざる可らずとて四十四年十一月上旬自費を投じて名古屋に堀内を訪ひ前約履行に就き談ずる所あり更らに三好氏も又一月中家族同道内地旅行の途次雜兒の名古屋にあるを訪問したる序を以て堀内の招待に依り一夜會談したるが兩者の中間には吉田米吉のあることとて此者を疎外して何等具体的の案件成立する筈もなければ其儘にして立別れたり（つゞく）

●昨今の質屋と古着屋

▽景氣は好いか不良か

吹き荒ぶ風に乘つて冬が來た中以上の家庭ではソレ〳〵冬仕度が整つたろうが大多數を占めてゐる中以下の家庭ッタ心掛の善くない獨身者など襟垢の目立つ見窶らしい姿で彷徨ふてゐるのも尠なくないソコで之等の人々を常顧客とする古着屋や質屋等を訪ねてみた（△生）

▲氷井古着店主談（本町七丁目） 昨年に較べますると隨分淋しいものですよ昨年の今頃は高貴織とか縮緬物等概して上物がドシ〳〵賣れましたが昨今に上物の賣れ行きは鈍い方です先づ二三圓から五六圓位の銘仙物がよく賣れます値段は昨年に比し大差はありません

▲古洋服ロボツ〳〵出ますが景氣は面白くありません値段は新聞の眼三十圓した品でさほど傷んでなくとも三圓なんてのがあり元十圓位で可なり古いのでも五圓に賣れるのもあります兎に角一般に不景氣です云々

▲福田質店主談（櫻井町） 私共は得意が極まつてゐますから出入も大抵平均してゐますが餘り景氣は面白くありません云々轉じて某新店に足を向けると昨今では入る一方で踏張り出はありません殊に上物や洋服等は利息一文も取れずに流れて了ふには閉口します此の調子で進んだなら鼻の下が塞がらなくなります

▲某蒲團店主談 昨今は季節ですから注文が無ければならんのですが如何したものか本年は更にありません昨年の三分の一程も無い位ですソレに不景氣ばかりでなく氣候が暖か過ぎる爲めでもありましようか云々

●仁川娼妓の逃亡

▽京城に向ひし形跡あり

仁川敷島新遊郭地大山樓抱娼妓原籍京都府乙訓郡久世村字久世三十三番地藤名小樽事戶倉しう（二三）同原籍大坂市東成郡長居村大字寺岡六百四十七番地藤名愛吉事林あい（十九）の兩名は二十三日午前十一時宮町まで髮結に行くと稱し樓主の承諾を得花町巡査駐在所に屆出をなし外出したり然るに同日は零時三十分より眼科の定期檢査日に相當するを以て樓主より同時刻までには必ず歸樓なすべく諭され居たるに日暮に至るも兩人は歸樓せざるより之れ必覺逃走せしに相違なしと直ちに其旨派出所に屆出で一方各停車場に人を派し搜査せし處同日午前十二時十二分仁川發列車にて二名の女京城行の切符を以て乘車せしを確めたれば入方手を廻して捜查せしも見當らず依て兩人の所持品を取調へたるに塵紙一枚殘らず取纏め持去り居たる由なるも兩人には左程深き馴染を重ねし者あるとは思はれざれば必竟惡者の教唆に乘りしならんと云ふ

●中の新地の惡風

▽素見客を袋叩にす

佐賀縣人當時吉野町居住土木請負業磯口甚藏（四一）香川縣人當時吉野町岡田伊太郎（三三）生命保險勸誘員塚本直吉の三名は二十三日午前九時頃一枚機嫌にて中の新地を素見し廻り玉の江樓前にて言葉の行違より磯口と仲居と爭論を初めたるに何者とも知れぬ五六名の者が突然現はれ出で相手の喧嘩は男でないと磯口を引出し袋叩きにし何處ともなく逃走したれば加害者不明にて泣寢入りし由なるが要するに中の新地各樓に緣故あるものならんと

●恐喝事件の公判

既報土木請負業高田久五郎（恐喝取財並に橫領罪）の控訴事件は京城控訴院刑事部法廷に於て二十四日午前十一時より鈴木裁判長の係り河内檢事立會の下に公判開廷せられ被告辯護人として辯護士木尾虎之助氏出廷せり當日證人として恐喝を受けたる被害者なる即ち高田久五郎の內緣の妻と稱する村瀨竹及櫻頭事件の被害者と稱する河野忠次郎の訊問あり而して河野は目下竹園町の殺人事件嫌疑犯人として警務總監部に拘禁中の身分にて加納長野兩刑事監視の下に出廷せり證人等は辯護人より急所を突込まれ狼狽し曖昧の點ありき訊問終り檢事は控訴棄却の論告を爲し辯護人は無罪を主張し言渡は來る二十九日に決し閉廷せり

●牛乳が酒に化る

藤富牛乳部店員宮城縣人根本章吉（二三）は本年七月より牛乳配達兼集金人として雇れ本町一丁目より五丁目迄及南大門通り一丁目より三丁目を受持ち居たりしが八月より九月迄の間に於て牛乳代金八十四圓餘を橫領し酒色に浪費し南部署に告訴され取調の上檢事局に送らる

●空家に怪しき鮮人

東大門外當時住所不定金梅允（二五）は二十二日午後二時頃大和町三丁目三十五番戶の空家に侵入し寢臥し居るを南部署警官に認められ尙ほ日本人用の褞袢外三點贓物らしき品物携帶し居るより本署に引致され目下取調中

●巡査を毆ひて賊

窃盜前科者なる鮮人趙文元（二三）李福男（二二）は先頃龍山警察署詰巡査與泳珠を毆ひ衣類數十點を窃取せし曲者にして久しく京龍間を徘徊し居りしが此程龍山署にて捕縛せられ檢事局へ送られたり元來此者は他にも連累徒黨あるらしく同人は日本內地人のみ四十餘戶を荒し居たりと

●泥坊稼業の芋賣

京城東大門外崇信面契入統二戶尹福男（三三）は十八日當龍山老松町九番戶笹本福七方へ芋賣りに行き家人の隙を窺ひ入口にありたる洋傘一本を窃取したるを發見せられ龍山署の酒本刑事によりて龍山署に引致せらる甚だ橫着なる鮮人

●仁川の遺失二件

仁川仲町一丁目原金族 錦灘在群山港本町通森菊五郎は二十三日永登浦驛より汽車にて下仁したる際金十七圓入の財布を遺失▲仁川龍岡町二丁目井上源二郎方飲島作平は同日宮町より歸宅の途中に於て三圓十錢外認印二個入の皮財布を遺失孰れも屆出づ

●龍山小學校と猩紅熱

先般來十數名の猩紅熱患者を出したる龍山小學校は去る二日以來休校豫防消毒中なりしが既に終熄したるが如くなれば來週より授業開始すべしと云ふ

●土佐紙支店の自祝宴

南大門通三丁目土佐紙株式會社京城支店にては業務發展自祝の爲め二十二日午後六時南山町一丁目於葉亭に知己數十名を招き盛大なる自祝宴を張りたり

●演藝だより

▲壽座 花園紫の前講は伊藤公傳の讀きにして後席が川村春雄洋行談、桃中軒雲右衛門の讀物は『南部坂雪の別れ』にして後席は水府の義士伊藤孫兵衛の傳なるが好節家たるもの此の好演題を聽き落すべからず

▲浪花館 若遊三一行の落語、手踊り等は大好評なり特に圓好の話振りに至つては全く東京式にてキビ〳〵として大に可なりと褒められたとて圓子を下すべからず

▲歌舞伎座 歌玉一座の歌舞伎芝居

平民文庫

▲菊は花中の隱逸である晩秋初冬嚴霜の下に咲き匂ふてゐるアノ勇姿に接する毎に僕は世路も艱難も人生の煩悶も忘れて了ふ昨日金華園に行つた紅黄紫白とり〳〵に色彩られたる花壇も日毎に凋落の色を增して行くのを想ふて一入斯美を味ふのが惜まれた（狂菊生）▲貴新聞の廣告欄で見た日韓書房新版發賣の朝鮮農業要覽兩三日中に纔本出來とのことだから早速注文した願くば從來有りふれたる机上の空論でなく斯業家の指針となるものであつて欲い（藻島農業家）▲大和新地〇樓の娼妓に肺結核の患者あり年二十七八色淺黑し劍吞々々（劍吞生）▲井關君新聞に取消なんて止しなさ事實は甚だ確したって否定することも出來ないよ君が故郷に於けるの歐的行爲渡鮮來の非行知らぬと思ふは君ばかりだ痛憐の淚に身心を深めて眞面目の生涯に入れかし（カーキー服）▲京城の各病院を迂路つき廻つた言語不明瞭の代診が今〇町某病院に居る速かに放逐せんと傳染病よりも危險だ（衛生家）▲明治町通りに古本屋が先頃から現はれた手垢の付かぬ書が定價の三分の一乃至五分の一で買へる結構なことだ（貧書生）▲十六日汽車中で四五人の被告人を伴れたる部長さんは郡体中にもキゲンを保ち永登浦で下車されたは感心仕候（越中褌生）▲永樂町一丁目の三井物產會社所有の大きな邸內にある借家を見に往つたが大に家賃が高いと思はれる（借家探し）